

2022年度 小委員会活動成果報告

(2023年3月8日作成)

小委員会名	鉄筋コンクリート造建築物の耐久設計研究小委員会	主査名：兼松 学 就任年月：2022年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会 (鉄筋コンクリート工事運営委員会)	委員長名：橘高 義典 主査名：野口 貴文
設置期間	2022年4月 ～ 2026年3月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>環境配慮型社会を受けた材料の多様化を背景として、新たな鉄筋コンクリート造建築物の耐久設計の考え方を検討し提案する。そのうえで、「鉄筋コンクリート造建築物の耐久設計施工指針・同解説」の改定を行う。</p> <p>初年度：限界状態および劣化環境の調査を進め、最新の劣化メカニズム、劣化予測手法、設計・施工方法、維持管理手法に関する情報収集を行う。</p> <p>2年度：新たな耐久設計手法の枠組みを示し、学会大会などにおいて研究協議会を開催するなどして、速やかに意見集約し、社会全体の合意形成に努める。</p> <p>3年度：指針の改定作業を進め、年度内の本文の査読を目標とする。</p> <p>4年度：本文の査読結果を踏まえて解説を作成し、指針を発刊する。また、講習会を実施する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：兼松学（東京理科大学） 幹事：福山智子（立命館大学）、酒井正樹（大林組） 委員：今本啓一（東京理科大学）、親本俊憲（鹿島建設）、黒田泰弘（清水建設）、辻大二郎（竹中工務店）、寺本篤史（広島大学）、中田清史（国土交通省）、濱幸雄（室蘭工業大学）、濱崎仁（芝浦工業大学）、松沢晃一（建築研究所）、山田義智（琉球大学）</p>	
設置WG (WG名：目的)	耐久設計指標 WG：RC 造建築物の耐久性を評価するための限界状態を定める設計指標の見直しに関して情報収集、整理等を行い、小委員会を補佐する。	
2022年度予算	800,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会HPアドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	5回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	対面とオンラインを組み合わせた委員会開催によって、目標とする指針出版に向けた技術情報を取得できた。また、2022年11月に耐久設計指標WGを設置し、限界状態を定める設計指標の再考・再検証に関する議論を深めることができた。
委員会活動の問題点・課題	初年度は順調に進行しており、大きな問題点・課題は生じていない。